

「ちいさな仏さま」

大本山總持寺参禅室長 花和浩明

大本山總持寺の北部通霽廊の裏に一本の大きな桜の木があります。その隣にひっそりと一体の石のお地蔵さまがたたずんでいます。春になると桜の花が満開になり、年に一度だけ、いつもは飾り気のないお地蔵さまを目いっぱい彩ります。そのときだけは普段おすまし顔のお地蔵さまが、満面の笑みをたたえてよろこんでいるかのようです。

そのお地蔵さま、実は園児たちに大人気なのです。お地蔵さまの前の道路を北にいくと、すぐに長い斜面をくだる階段となり、その降りた先に總持寺保育園があります。總持寺の境内はその園児たちの普段の遊び場になっていて、毎日大勢の園児たちがお地蔵さまの前を横切ります。園児たちはひとり残らず、お地蔵さまのまえに立ち止まり、合掌して元気な声で、「おはようございます」「こんにちは」とご挨拶します。子供たちはほんとにこのお地蔵さまが好きらしく、それまで、ふくれっ面でいた子も、にっこりと顔がほころびます。私も毎日その光景を眺めるたびに、思わずほおが緩み微笑んでしまいます。

ところで總持寺保育園は大本山總持寺内に経営母体があり、慈悲や禅の精神に基づいて園児教育をしています。その一環として、毎月いちど保育園内で年長組を対象に坐禅会を行っています。私は今、この坐禅会の指導を担当させていただいています。先日、新年長組初めての坐禅会を行いました。初めて経験する坐禅は、園児たちにはちょっと苦しかったかもしれませんが、五分もたつと、隣の子にちょっかい出したり、わざと咳をしたりします。咳の合唱が大きくなると坐禅は終了です。しかしどんなに騒がしかった園児たちも坐禅会を一年も続けると、ほとんどみんな静かにしっかり坐ることができるようになります。幼い子は、無垢な心と大人にはない柔軟性で、ほんとに綺麗な坐相で坐ることができます。園児が坐禅している姿は、まさにちいさな仏さまそのものです。

仏教の教えの中に、人は生まれながらにそのまま仏であるという教えがあります。屈託のないおもいでお地蔵さまに手を合わせたり、無垢なところで坐禅をしている園児たちの姿は、私たちにそのことを雄弁に物語ってくれます。私たちは長い人生の中で、多くのものを身につけてきた一方、大切なものを忘れてしまっているような気がします。子供たちは信じるという大切な心をいつも教えてくれる尊い先生なのです。